

麻疹の発生動向と予防接種について

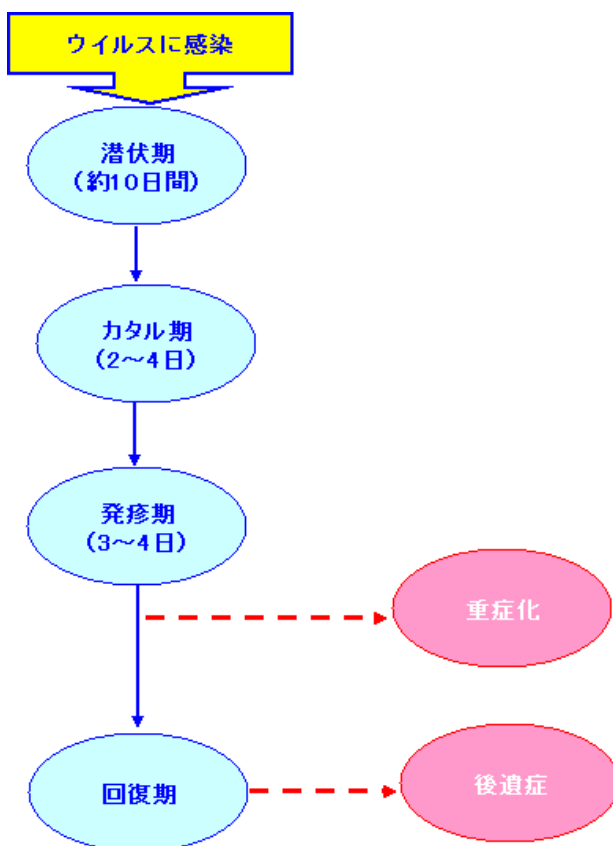
麻疹（はしか）は、麻疹ウイルスの感染によって起こる病気です。感染力が非常に強く、こどもに多い感染症として知られていますが、近年では成人麻疹の増加が問題となっており、10～20代での発症が多く報告されています。

感染経路

空気感染、飛沫感染、接触感染

症状

麻疹は大変感染しやすく、以下のように経過します。



（カタル期）

感染後約10日間の潜伏期間の後、38℃程度の発熱や鼻水、咳、くしゃみ、目の充血などの風邪のような症状や、発疹の出現する前後には、頬の粘膜に灰白色の小白点（コプリック斑）が現れます。この時期は、麻疹ウイルスが特に多く排出され、広い範囲で、多くの人に感染を広げる可能性があります。

（発疹期）

2～4日の発熱の後、39℃以上の高熱と発疹といった麻疹に特徴的な症状が現れます。

（回復期）

解熱し、発疹は出現した順に色素沈着を残して消えていき、合併症がなければ回復していきます。しかし、免疫力が低下しているため、しばらくは他の感染症に罹りやすく、体力が回復するには1ヶ月程度を要することもあります。

（重症化または後遺症）

全身の免疫力が低下し、重症化すると肺炎や中耳炎等の合併症を生じやすくなります。

さらに悪化すると、脳炎（1,000人に1人が発症）を起こしたり、死に至る場合（脳炎後の死亡率は10%）があります。また、回復してから約10年の期間を経て発症する、亜急性硬化性全脳炎（あきゅうせいこうかしょうぜんのうえん SSPE、10万人に1人）などの重篤な後遺症を残す場合があります。

治療

麻疹を発症した場合、安静にして症状を楽にすること（対症療法）が基本となります。特別な治療方法はありませぬ。

予防方法

予防接種（MRワクチン：麻疹・風疹混合ワクチン）が有効です。手洗いやうがい、マスクの着用では、麻疹の感染を防ぐことができません。

発生動向と予防接種

平成21年の感染症発生動向調査によると、全国では麻疹患者が741人、沖縄県では5人（0歳1人、20代2人、40代1人、80代1人）が報告されました。

以前は、麻疹患者は乳幼児が中心で、その多くは予防接種を受けたことがない場合でしたが、平成19年以降、思春期から若年成人（10～20代）を中心とした麻疹の全国的な流行がみられるようになりました。

平成20年、沖縄県では、屋内ライブコンサート会場や野外バーベキューでの感染をきっかけに、多くの人たちに感染が拡大したことがありました。

その理由として、10～20代の若者は、麻疹が流行した場合に、感染を防ぐには免疫が不十分である者が多いことが指摘されました。

通常、1回の予防接種で95%以上の人が十分な免疫を獲得します。しかし、残り数%の人は1回の接種で免疫ができたにもかかわらず、その後の時間の経過とともにその免疫が減ってきたため、10～20代の若者に流行が広がったと考えられました。

そのため、国は、1回目の接種で十分な免疫がでなかった子供たちに、もう一度接種の機会を与えて、十分な免疫を与えることを目的に、2006年6月から予防接種(MRワクチン：麻疹・風疹混合ワクチン)の2回接種制度を始めました。また、平成20～平成24年までに国内の麻疹の流行をゼロに抑えることを目指した「麻疹排除計画」をスタートさせ、10～20代の若者の麻疹予防に力を入れています。

各年度の定期予防接種対象者は図1のとおりです。対象にあたる方は、忘れずに接種を受けましょう。



第1期 : 生後12ヶ月以上24ヶ月未満の者

第2期 : 5歳以上7歳未満の者であって、小学校入学前の1年間

2010(平成22)年度	2011(平成23)年度	2012(平成24)年度
平成16/4/2～ 平成17/4/1生	平成17/4/2～ 平成18/4/1生	平成18/4/2～ 平成19/4/1生

第3期 : 中学1年生に相当する年齢の者（年度内に13歳になる者）

2010(平成22)年度	2011(平成23)年度	2012(平成24)年度
平成9/4/2～ 平成10/4/1生	平成10/4/2～ 平成11/4/1生	平成12/4/2～ 平成12/4/1生

第4期 : 高校3年生に相当する年齢の者（年度内に18歳になる者）

2010(平成22)年度	2011(平成23)年度	2012(平成24)年度
平成4/4/2～ 平成5/4/1生	平成5/4/2～ 平成6/4/1生	平成6/4/2～ 平成7/4/1生

図1. 平成22年～24年度 麻疹・風疹ワクチン定期予防接種対象者

予防接種率の現状

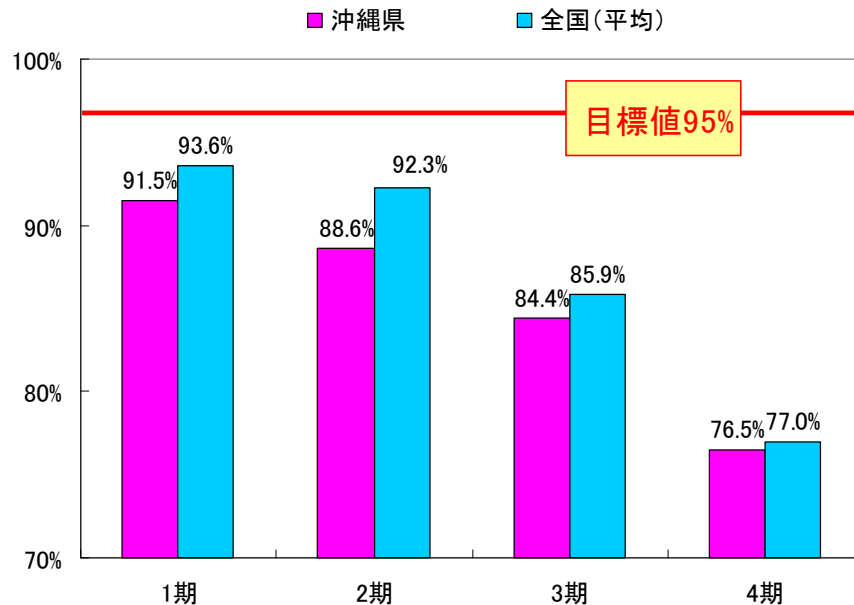


図 2. 麻疹・風疹ワクチン接種率(平成 21 年度)

麻疹は、予防接種率が 95%以上であれば、地域での流行を阻止できるとされています。

[平成 21 年度麻疹・風疹ワクチン接種率集計によると、対象者の予防接種率が低迷している結果が発表されました \(図 2\)。](#)

このことは「多くの人が集まる機会があって、その中に麻疹患者が一人でもいれば、沖縄県で流行する可能性がある」といえます。

麻疹は子供だけでなく、どの年代にとっても重い病気ですが、予防接種で予防できる感染症です。

予防接種を受けたことがない方はもちろん、幼児の頃、1回受けたことがある方も2回目の予防接種を受けましょう。麻疹にかかったことが確実にない方も予防接種を受けることをお勧めします。

予防接種について不明な点がございましたら、お住まいの市町村予防接種担当課にご相談下さい。

【企画管理班】

もっと詳しく知りたい方は・・・

※ 沖縄県麻疹発生全数把握実施要領

URL:<http://www3.pref.okinawa.jp/site/view/contview.jsp?cateid=80&id=5095&page=1>

※ はしか”0”プロジェクト小児保健協会

URL:<http://www.osh.or.jp/hashikazero/index.html>

※ 麻疹 Q&A 国立感染症研究所感染症情報センター

URL: <http://idsc.nih.go.jp/disease/measles/QA.html>

※ 麻疹 2009 年 (Vol. 31 p. 33-34: 2010 年 2 月号)

URL: <http://idsc.nih.go.jp/iasr/31/360/tpc360-j.html>

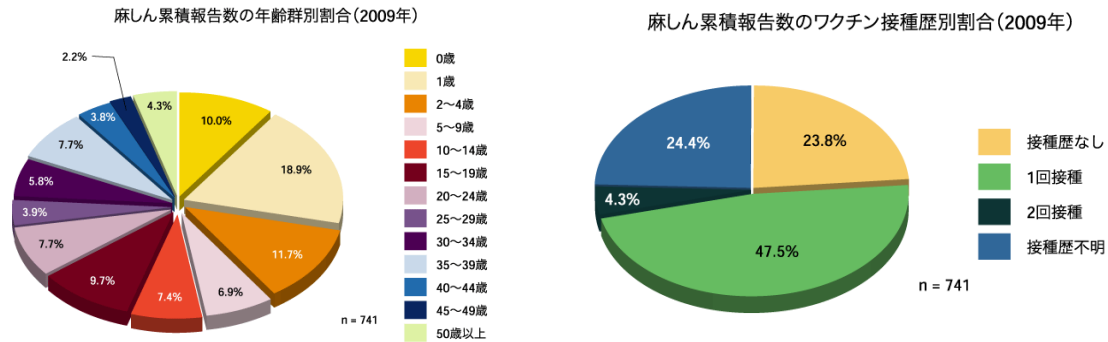
[→戻る](#)

麻疹患者の報告状況

<全国>

感染症発生動向調査によると、平成21年は全国で麻疹患者741人が報告されました。年齢群別割合をみると1歳が最も多く、0歳、2歳と続きますが、他の年齢からも幅広く報告されています。

また、麻疹患者のワクチン接種歴別割合をみると、その内訳は、接種歴なしを上回り、1回接種の患者が最も多く報告されています。



<沖縄県>

平成21年、沖縄県で麻疹患者5人(0歳1人、20代2人、40代1人、80代1人)が報告され、うち予防接種歴なしが4人、接種歴不明が1人でした。

図1-1は、感染症流行予測調査による、平成21年に沖縄県で麻疹に対する免疫(抗体)を持っている人の割合を年齢別に表したグラフです。0-1歳、15-24歳は、「麻疹に感染しやすい者が多い」年齢層であり、予防接種を積極的に受けることが重要です。

(赤色) 抗体価をほとんど持っておらず、麻疹の罹患を防ぐことができないとされる割合は、0-1歳、15-19歳が特に高い。

(青色) 免疫を十分に持っており、麻疹の発症を防ぐことができる割合は、15-19歳(53.8%)、20-24歳(33.3%)が特に低い。

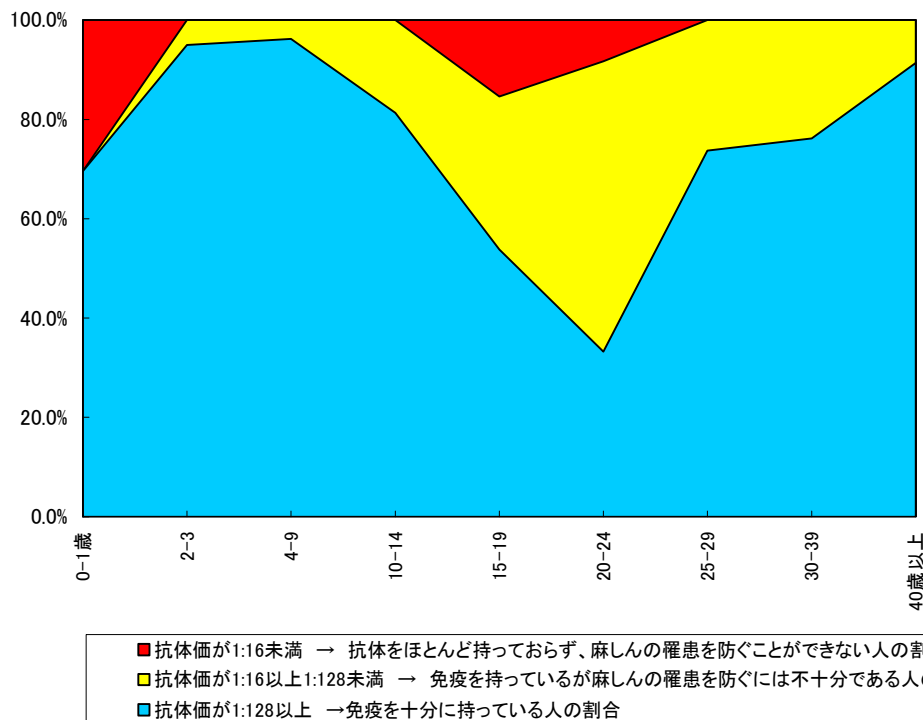


図1-1 年齢/年齢群別 麻疹PA抗体保有状況(平成21年:沖縄県)